



## Symbiotic Landscape

IKU HARADA

実施場所 駒沢オリンピック公園総合運動場  
(東京都世田谷区駒沢公園 1-1)

アーティスト 原田 郁

主催 東京都

掲載期間 2024年4月～2025年1月

改修中の体育館を背景にした、全長約90メートル、高さ約3メートルの作品です。手がけたのはアーティストの原田 郁氏。コンピューターの中に架空の世界を作り、それを現実の絵画として仕上げる作風が特徴です。工事で使われるパイプや鉄骨のような造形が、まるで生き物のように組み合わせたり、周囲のリアルな草木や花々と共存している様子は、工事現場が自然の一部であるかのような不思議な調和を生み出しています。赤・青・黄・緑を用いた鮮やかなカラーは、都立駒沢オリンピック公園が会場のひとつとなった東京2025デフリンピックのテーマカラーにちなんだものです。

06 本作品は、P24に記載する「守らなければならない広告物の規格」を超えていますが、東京都生活文化局が申請者となり、景観や風致の向上に資するものとして特別に許可を得て掲出したものです。



# みずのはし

SHINJI OHMAKI

実施場所 東京都庁第一本庁舎  
(東京都新宿区西新宿二丁目 8-1)

アーティスト 大巻 伸嗣

主催 東京都

掲載期間 2024年9月～2025年3月

Photo by Keizo Kioku

作品を手がけた大巻 伸嗣氏は、まず場所のリサーチから始めました。東京都本庁舎のある西新宿地域に1965年まであった「淀橋浄水場」が、今も都市構造として引き継がれていることに着目。かつての浄水場に、都庁がそびえ、異なる国や地域から訪れる観光客や東京の人々が交差する場所となっています。

古くから絵画などで様々に表現されてきた水の文様と、鏡面に映り込む風景を大きなうねりの中に重ね合わせ、巨大なビル群に埋もれた場所の記憶と現在をつなぐことを試んでいます。平面的な表現を超えて、空間に新しい力を生み出しています。





Construction site art by Tokyo metropolitan government  
東京都の実施事例



## 写楽の眼、未来人の発見 YUSUKE KOMUTA



「写楽の眼」

### Interview

工事の仮囲いは博物館の内と外をつなぐ境界線です。様々な人が前を通る中で、そこでちょっと足を止めてもらえるような、博物館の存在を伝えるきっかけになったらいいなと思いました。特に「写楽の眼」は、線のにじみだったり、絵の具が飛んだ跡だったり、しっかり見えるように印刷できています。またいずれの作品も、目の前に立つと身体が絵の中にすっぽり入ってしまうような大きなサイズです。是非近くに寄って、絵の中に入っていけるような体験をしてもらいたいです。

小牟田 悠介氏 | Yusuke Komuta



Artists Interviews

実施場所 江戸東京博物館  
(東京都墨田区横網 1-4-1)

アーティスト 小牟田 悠介

主催 東京都

掲載期間 2024年11月～2025年9月

江戸東京博物館のロゴマークは、東洲斎 写楽が描いた「市川殿蔵の竹村定之進」の左目をモチーフにしています。そこで小牟田 悠介氏はこの「写楽の眼」を題材に、彩り豊かな作品に再解釈しました。制作には地元の中高生たちも参加。絵の中のパーツを自由な発想で組み合わせています。

また「未来人の発見」では、博物館の収蔵品から約30点をピックアップし、言葉を組み合わせたユニークな作品を仕上げました。これらの作品には、博物館が再開するまでの期間を、街の人たちにとってワクワクする時間にしてほしい、という思いが込められています。

10 本作品は、P24に記載する「守らなければならない広告物の規格」を超えています。東京都生活文化局が申請者となり、景観や風致の向上に資するものとして特別に許可を得て掲出したものです。

「未来人の発見」



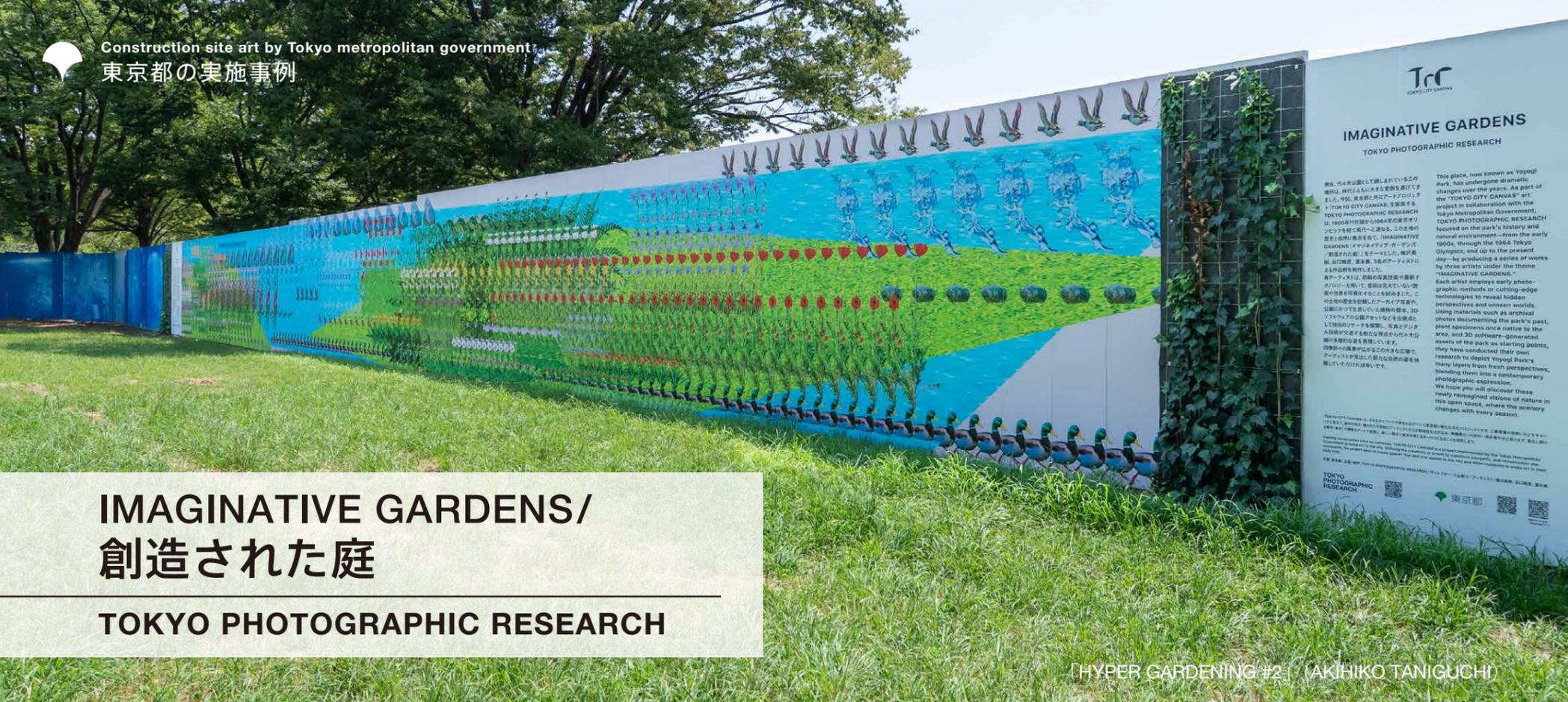
Photo by Reiko Masutani



Photo by Reiko Masutani



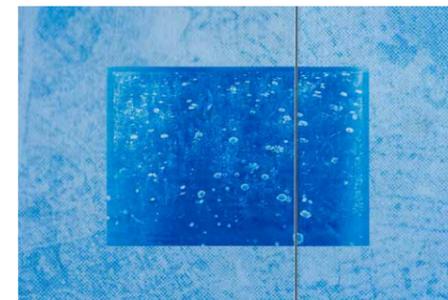
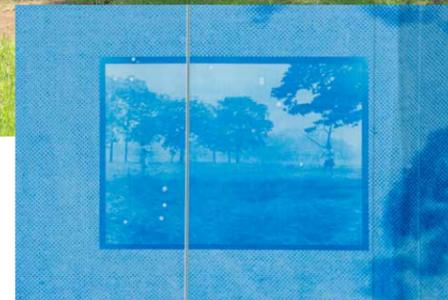
Photo by Reiko Masutani



# IMAGINATIVE GARDENS/ 創造された庭

## TOKYO PHOTOGRAPHIC RESEARCH

「HYPER GARDENING #2」 (AKIHIKO TANIGUCHI)



「YOYOGI BOTANICAL PATTERNS」 (HIDEKI UMEZAWA)

実施場所	代々木公園中央広場 (東京都渋谷区代々木神園町 2-1)
アーティスト	梅沢 英樹、谷口 暁彦、濱本 奏
ディレクター	小山 泰介 (TOKYO PHOTOGRAPHIC RESEARCH)
主催	東京都
掲載期間	2025年3月～2026年秋頃(予定)

多くの人々に親まれてきた代々木公園を、アートを通じて多様な視点で見つめ直すことをコンセプトに、全長約 170m にわたって展開されている本作は、小山 泰介氏のディレクションのもと、3名の若手アーティストによって制作されました。梅沢 英樹氏の作品は、植物学者の牧野富太郎博士が採集した植物標本をモチーフに、人と自然との関係性を問います。谷口 暁彦氏の作品は、3DCGで描いたバーチャルな自然を通じて、現実と仮想の境界を写し取ろうとしています。濱本 奏氏の作品は、移り変わる代々木公園の姿から、変わるものと変わらないものを表現しています。

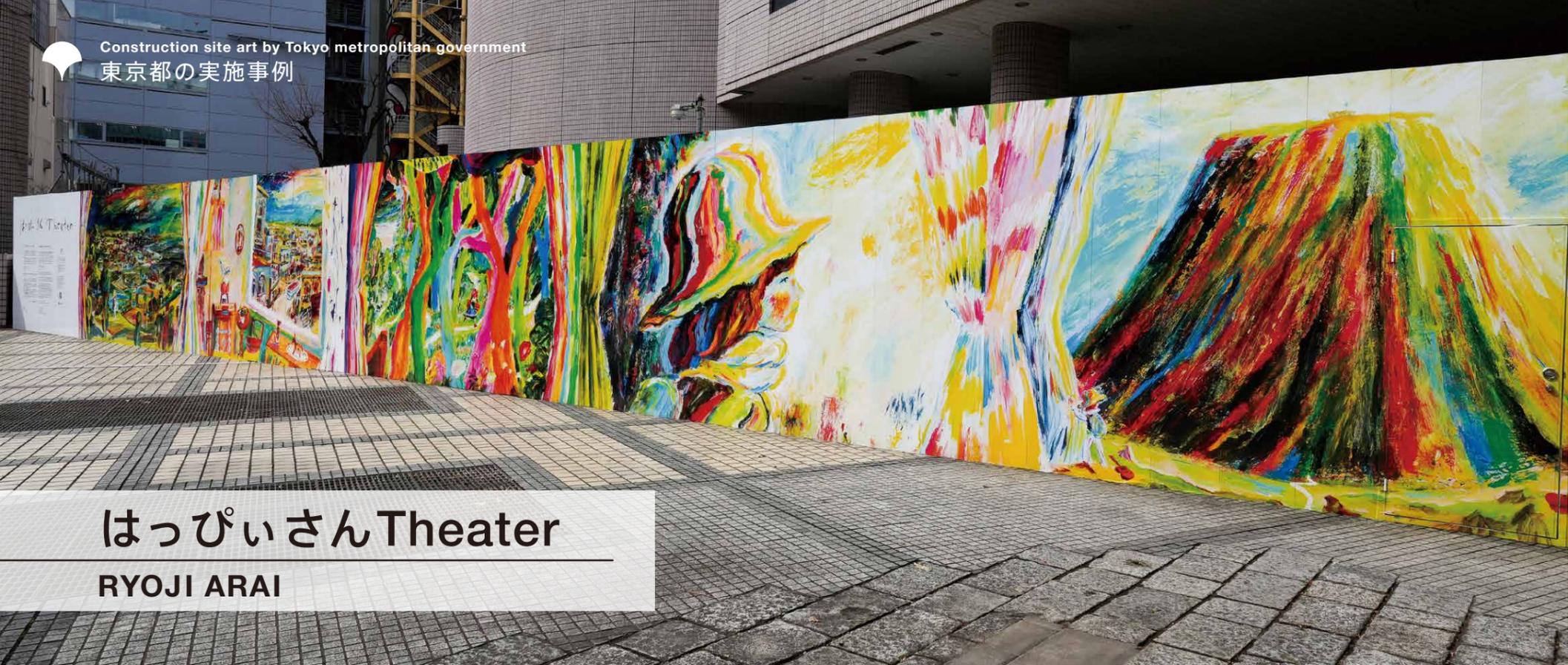
## Interview

代々木公園の大きな広場に面した場所での展示は、来園者の方の興味関心を引くことや、楽しめるアートにする点に難しさと同時に面白さを感じました。3名のアーティストは、歴史や地理など多様な視点からリサーチを重ね、作品に反映させています。そのため、作品を通じて代々木公園の新たな魅力を感じ、より親しみを持ってもらえたら嬉しいです。工事現場が多い東京において、仮囲いがアートの支持体として、様々な作品が体験できる場になってほしいと考えています。

小山 泰介氏 | Taisuke Koyama



Artists Interviews



# はっぴいさん Theater

RYOJI ARAI

実施場所 旧こどもの城跡地  
(東京都渋谷区神宮前5-53-1)

アーティスト 荒井 良二

主催 東京都

掲載期間 2026年2月～2027年2月

かつてこの場所にあった「こどもの城」や劇場にちなんで、絵本作家・荒井 良二氏の『はっぴいさん』（偕成社）を全8幕で構成しています。願いごとを叶えてくれるという〈はっぴいさん〉に会いに出かけた男の子と女の子の旅路が巨大な絵巻物のように描かれ、見る人は歩きながら物語の世界に入り込んでいきます。また、ワークショップを通して地域の園児から寄せられた「願いごと」を側面の仮囲いにちりばめました。こどもたちの「願いごと」は、大人にも通じるみんなの希望でもある、と荒井良二氏は語ります。

## Interview

こどもの城という場所の記憶をもとに、子どもも大人も心の中に持っている共通のものを提示したいという想いがあり、それが『はっぴいさん』のテーマである〈願いごと〉だと考えました。横に長い仮囲いを絵巻物に見立て、絵本のエッセンスを抽出して描いています。また、かつての劇場にちなみ、絵本のエピソードを幕が上がった舞台風景のように表現しています。作品に添えた子どもたちの願いごとは、大人にも響くシンプルでストレートな言葉がたくさんあるので、読んでもらいたいです。

荒井 良二氏 | Ryoji Arai



写真：池田 晶紀

